

全般	計画	土づくり	苗づくり	植付け	初期	中期	後期	収穫	調製	出荷
----	----	------	------	-----	----	----	----	----	----	----

農地の保全管理

規範項目 13

必須・重要・**推奨**

環

土壌の流出防止

土壌は降雨や強風によって侵食を受けるため、放置すれば作物を健全に生育させるための作土層が失われていくこととなります。

畑や水田畦畔など土壌の性質によって侵食を受けやすい場合があるので、必要に応じて被覆作物の栽培等を行うことが重要です。

取組事項

- ・ 被覆作物を活用する。(草生栽培を含む)
- ・ 風向等を考慮した耕うんや畦立を実施する。
- ・ 堆肥の施用等により土壌の透水性を改善する。

水田では、畑地や樹園地と比べ土壌の浸食は生じにくく、水田を中心とする富山県は、土壌流出の可能性の少ない地域といえますが(図1)、畦畔や法面等を長期間除草剤を用いて管理することにより、畦が弱くなり、畦畔等の崩壊が発生する恐れもあります。被覆植物の植栽(図2)や浸食が生じた際に速やかに応急処置を講じるなど、畦畔の崩壊を防ぎましょう。

傾斜地にある樹園地等では、土壌浸食や耕起作業によって、斜面の下方に作土が移動することがあります。また、畑地などでは、農地を裸地状態で放置した場合にも、降雨や強風などによる作土の流出や舞い上がりなどによる侵食を受けやすくなります。(表1)

これらに対し、土壌侵食を軽減する方策としては、次に掲げるようなものがありますので、必要に応じ取り組みましょう。

【耕うん整地上の改善方策】

- (1) 降雨などによる侵食で生じた溝は速やかに修復する。
- (2) 堆肥の施用等により土壌の透水性の改善を図る。
- (3) 風に対して直角に畦立てを行い、畦の間隔を狭くする。
- (4) 風食を生ずる時期の耕うんは極力避けるようにする。
- (5) プラウ耕等の利用により、斜面の上側に土が行くよう耕起する。

【植物等による地表面の被覆による改善方策】(表2)

- (1) 栽培体系の改善(裸地期間の削減)
- (2) 畦間等への稲わら等による被覆
- (3) 樹園地における草生栽培(図3)
- (4) 被覆植物による畦畔管理

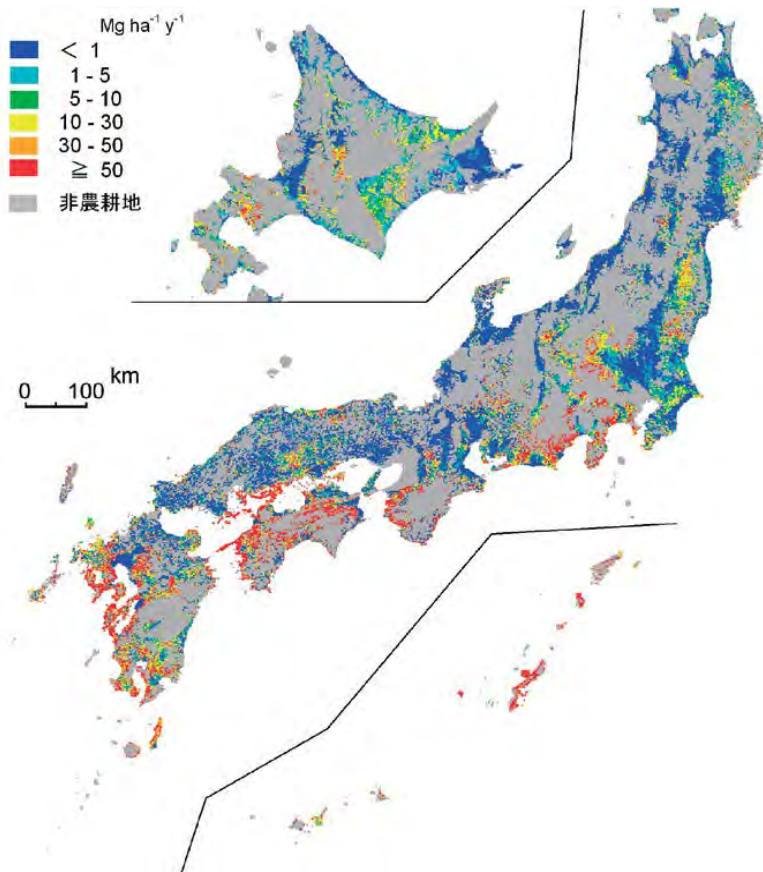


図1 我が国における土壌浸食のリスク(赤ほど高い)
 出典: (独)農業環境技術研究所HP 第26回土・水研究会講演資料
 「農耕地における1kmメッシュ土壌浸食ポテンシャル量」



図2 被覆植物(シバ)による畦畔管理



図3 果樹園での草生栽培

表1 土壌浸食を受ける可能性が高い農地の割合 (%)

	面積割合
普通畑	13.0
樹園地	21.1

資料: 地力保全基礎調査

出典: 農林水産省生産局環境保全型農業対策室資料
 (平成19年12月)

表2 土壌浸食を軽減するための営農活動の効果

年度	処理区	土壌流出量	
		(乾土kg/10a)	割合(%)
9	無処理	10,842	100
	畝間ライ麦播種	1,847	17
	畝間稲わら設置	1,495	14
10	無処理	8,559	100
	ライ麦+稲わら	311	4
	畝間ライ麦播種	308	4

注1: 圃場条件: 細粒黄色土(赤山統)、斜面40m、斜度5°、畦幅1.2m

注2: 各処理は斜面最下部及び一定間隔の畝間に施し、畦尻に設置した土砂溜に溜まった土砂量を定期的に観測した。

出典: ライ麦利用による黄色土ダイコン畑からの土壌流亡軽減技術
 (岐阜県農業総合研究センター環境部)より抜粋

【根拠法令等】

- 地力増進法・地力増進基本指針 (平成20年度農林水産省公表)
- 環境と調和のとれた農業生産活動規範について (平成16年度農林水産省通知)